

シタル打上簾ヨリハ、尤重カルベキ也、安永五年申二月定メ沙汰アル家ハ、伊達遠江守殿バカリナリ、

腰黒塗。是ヲ普通ニ用ルコトヲ制止アルハ、腰網代ニ見紛フノ故ナルベシ、多年高家ノ人々乗

物ハ、腰ヲ黒ク塗リタルヲ用ヒラレタルニ、安永五年申ヨリ、其品ヲ制止アル由ナリ、是如何ナル

故ト云コトヲ考ヘズ、全ク似テ非ナルモノヲ惡ムノ謂ナルベシ、

吳筵包。是ヲ只乗物ト言習セリ、大小名以下普通ノ家々、乘輿ヲ聽ル人ハ、是ヲ用ユ、但シ乘輿

ヲ聽サズ、乘馬スベキ人ノ老衰ニ及、又所勞ニテ乘馬ヲ厭フ人ハ、月日ヲ限リテ願ヒ請ヒテ乘輿

スルナリ、去レドモ其物ハ、俗ニ駕籠ト名付タルモノニテ、古ニ云フ復輿ナリ、此物ノコトハ猶下

ニ辨ズ、乗物トハ混ズベカラズ、然シテ此乗物ヲ吳筵包ニスルノ義、且乗物トノミ稱スルノコト

ハ、考ルコトヲ得ズ、略○中

并ニ按ニ、今ノ世、古ノ復輿ハ、駕籠ト稱シテ、乗物ニ等ク用ルユヘ、復輿ノ名ヲ用ズシテ、別ニ丸

棒或ハ角棒ヲ用テ、其棒ヲ透スニ、乗物ノ如クニ、カナモノヲ打テ透シタルガ、又丸竹ヲシキ曲

リ、其乗物又右ノ駕籠ト少ク異ナルモノヲ、阿牟太ト云ヒ、或ハ御免駕籠丸棒駕籠寶泉寺カ

ゴナドトモ云ヘリ、此頃諺ニハ、權門駕籠ナドトモ云ヘリ、丸棒トハ、見ヘタル形象ニテ云ヒ、御

駕籠ト云ヘリ、詳ニシラズ、今爰ニ寶泉寺トハ、云傳近世寶泉寺ト云フ寺ノ僧ノ好ミテ造リシ

云フハ、謂家中ノ使者ヲ勤ルモノ、權門家ヘ立入候族、多クハ馬

ニ乘ラズ、此アノダニノルユヘ、俗ニ權門カゴトイエルナリ、

此餘辻駕籠、今ハコシカゴトイヘドモ、岡曾駕籠宿カゴ等ノ物アリ、カゾヘ註スルニ及ザル雜品

ユヘ筆セズ、

〔守貞漫稿後集三〕乗物

將軍家ハ溜塗總網代、棒黒塗、家齊公薨御ノ後、其駕及ビ挾笥ヲ芝増上寺大僧正ニ賜フ、故ニ芝大